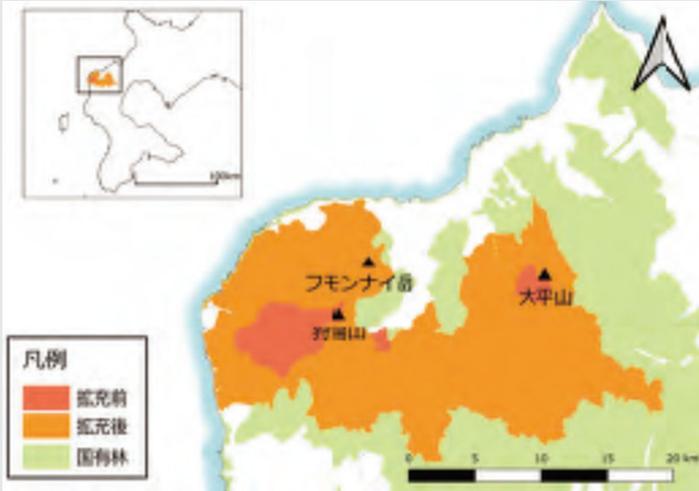


事例 17 ブナの北限地帯の保護林の拡張

(北海道森林管理局 後志森林管理署、渡島森林管理署)



・狩場山(かりばやま)・大平山(おおびらやま)周辺森林生態系保護地域

・北海道島牧村(しままきむら) 小田西川(おだにしかわ) 国有林
・保護林設定箇所(狩場山)
(令和元年9月)

渡島森林管理署管内にある狩場山地周辺は、生態系の重要な要素であるブナの北限地帯であり、原生的な天然林や希少種であるクマゲラ、クマタカの分布域となっていることから、平成5年に森林生態系保護地域に設定しました。

北海道森林管理局では平成29年度に外部有識者で構成する保護林管理委員会から、「当該保護地域の周囲のクマゲラの生息・繁殖地となっている原生的なブナ林を取り込む形で森林生態系保護地域を拡充すべき」との提言を受けたことを踏まえ、ブナの分布状況、クマゲラの営巣・繁殖域や特徴的な高山植物等の分布調査及び現地検討会を実施し、検討を行ってきました。この結果、令和5年3月に、当該保護地域に後志森林管理署管内の3つの保護林及びそれらを囲む原生的なブナ林や、ブナ林への遷移が期待される二次林等を統合し、新たに、「狩場山・大平山周辺森林生態系保護地域」(約3万6千ha)を設定しました。

今後は二次林等について、ブナを主体とした広葉樹林への誘導を目指す森林施業を実施するなど、原生的な天然林や希少な植生を適切に保護・管理するとともに、学術研究の場としても有効に活用していきます。